

# 首都圏病院網 拡充計画

## 実施地域

テグシガルバ



## 1. プロジェクト要請の背景

ホンデュラスでは、1982年の完全民政移管後、経済再建政策を強く打ち出して努力してきたが、経済不振は継続的に深刻な状態であった。このため、そのような経済状態の影響を最も受けている低所得者層に対する社会サービスの改善が急務となっていた。

テグシガルバ首都圏には、地域病院がないため、第三次医療機関であるサン・フェリペ病院と教育病院が第二次医療サービスまでを担っていた。また、この地域で救急・産科部門を持つ保健省管轄下の病院は、教育病院のみであった。このため、教育病院には低所得者層を中心とする患者が集中し、本来の第三次医療機関としての機能が十分に果たせない状態であった。

このような状況のもと、我が国は、1995年から1996年にかけて開発調査を実施し、ホンデュラスの保健医療サービスを総合的に改善するためのマスタープランを策定した。このなかでは、保健医療サービス網の拡大と施設・設備の再活性化が優先政策とされた。

ホンデュラス政府は、このマスタープランでの提言を受け、テグシガルバ首都圏の産科・救急部門の保健医療サービスの充実を図るために、我が国に無償資金協力を要請した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1996年度

### (2) 援助形態

無償資金協力

### (3) 相手側実施機関

保健省

## (4) 協力の内容

### 1) 上位目標

教育病院の混雑が緩和され、第3次医療機関としての機能を果たすようになる。

### 2) プロジェクト目標

テグシガルバ首都圏の産科・救急部門の保健医療サービスが充実する。

### 3) 成果

- a) サン・フェリペ病院に産科棟を増築する。
- b) 救急医療クリニックを3か所新設する。

### 4) 投入

#### 日本側

E / N 供与限度額 合計 9.98 億円

#### ホンデュラス側

ローカルコスト負担

## 3. 調査団構成

運営状況評価：岡本 幸雄 JICA 無償資金協力業務部  
部フォローアップ業務課

調達状況評価：林 玲子 (財)日本国際協力システム  
業務第二部

通訳：桜井 左千代 (財)日本国際協力センター

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1999年3月16日～1999年3月25日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

日本側による、サン・フェリペ病院産科棟及び3か所の救急クリニックの建設、医療機器の整備は、計画通り完了した。ホンデュラス側の負担工事は、サン・

フェリペ病院産科棟の電話回線の設置などにおいて、一部遅れが見られる。

施設・機材の内容・規模についてはおおむね適切な設計であったが、サン・フェリペ病院の雨水排水設備の不良や、ホンデュラス国内で消耗品を調達できない医療機材の調達など、今後改善すべき問題点も若干あった。

## (2) 目標達成度

本プロジェクトによるサン・フェリペ病院産科棟と3か所の救急クリニックの建設、ならびに医療機材の整備によって、テグシガルパ首都圏の救急・産科部門の医療サービスは大幅に拡充されており、本プロジェクトの目標は達成された。

サン・フェリペ病院の産科では、当初計画での想定患者数の619人/月に対し、これを大幅に上回る約950人/月の患者を診ている。出産数については、現在、複雑な分娩は教育病院に移送されていることもあり(サン・フェリペ病院産科棟は教育病院に属する第二次医療機関として位置づけられている)721件/月の想定に対して320件に留まっているが、施設・機材のレベルはサン・フェリペ病院のほうが上であるため、今後、複雑分娩についてもサン・フェリペ病院で対応できるようにすることが望ましい。

3か所の救急クリニックは24時間体制で活動し、クリニックごとに患者数の違いはあるが、3か所の患者の合計数は、1999年1月の実績で2,318人と、想定患者数の2,297人/月を超えている。

## (3) 効果

第3次医療機関である教育病院の救急・産科の患者は、若干の減少が見られるが、依然として混雑状態は続いており、本プロジェクトによる効果としては現時点では明確に現れていない。

## (4) 計画の妥当性

本プロジェクトはホンデュラス政府の保健医療中・長期計画の一環であり、政策に合致している。また、住民への裨益度が高い医療機関への支援であり、実際に患者数も想定どおり増加してきていることから、妥当性は高いと考えられる。

## (5) 自立発展性

現在、ホンデュラス政府は、1998年10月のハリケーン・ミッチの被害に対する復旧対策に予算を割いているため、本プロジェクトで建設された医療施設に対する予算措置は必ずしも十分でないが、今後、改善され



サン・フェリペ病院の産科棟。質の高いサービスを求めて、同病棟の患者数は増加している

ていくことが期待される。

また、一部の医療機材については、消耗品をホンデュラス国内で入手できないため、今後、その入手ルートの確保につき、病院側の努力が必要となる。

## 6. 教訓・提言

### (1) 教訓

整備された医療機材が相手側によって継続的に使用されるようにするため、消耗品の入手しやすさにも配慮して機材を選定する必要がある。

### (2) 提言

一部の救急クリニックでは、1998年10月のハリケーン・ミッチによって後背地の土砂崩れが発生しており、早急な対策が必要である。

## 7. フォローアップ状況

ハリケーン・ミッチによる被害へのフォローアップとして、1999年度に応急対策工事を実施した。